



ひとりだち



可児市立西可児中学校

R7 校報第13号
令和8年3月23日



N君へ

校長 吉田竹虎

N君、君が亡くなってから13回目の春を迎えます。

私は縁あって、3年前から私達の母校で勤務しています。

あの頃と校舎の造りは大きく変わっていません。イライラしたり涙したり、沢山笑った3年生の教室も、昼休みにワイワイしていた生徒会室も、卒業式「いい日旅立ち」で送り出してもらった体育館も、あの頃と同じです。

そして、時代が移り変わっても、後輩達の心根は私達の頃と一緒にです。

ちょっとしたことで友達同士トラブったり、親に反抗したり。でも、大概のことは直ぐに丸く収まっていきます。まさに青春時代そのものです。

校舎を回っていると、よく、あの時の私や君と出会います。キラキラした生徒達が羨ましくてたまりません。

45年前の卒業式の日は快晴でしたね。

紅白の饅頭をもらいました。そして、映画の帽子を投げるシーンを真似して、もう使わない上靴を生徒昇降口の上に皆で投げ上げましたね。(不適切な時代でした)(ちゃんと名前が書いてあって、後日妹が持ち帰らされた、という笑い話付きですが)

卒業式の日、1先生に言われた「西可児グリーン」の樹々は、あの頃よりも随分随分大きくなっています。まさに、緑の丘の上の学校です。

そして、新生徒会長がこんな話をしていました。

「私の目指す学校像は『ありがとう、でいっばいの学校』です。私が気付いたのは『誰かの支えがあるからこそ、私達は楽しく過ごせている』ということです。だから私は誰かに感謝を伝えたい。そのために・・・」

西可児中は、いつまでも大丈夫です。

そして、君や私を含めた全卒業生 11,095 人の母校であり続けています。



一年の結びにあたり、これまで本校にお寄せ頂いた全ての皆様方の、深いご理解とお力添えに、厚く感謝申し上げます。

新年度も引き続き、本校をお支えいただきますよう、よろしくお願い致します。